森と人を耕す、はじまりの場

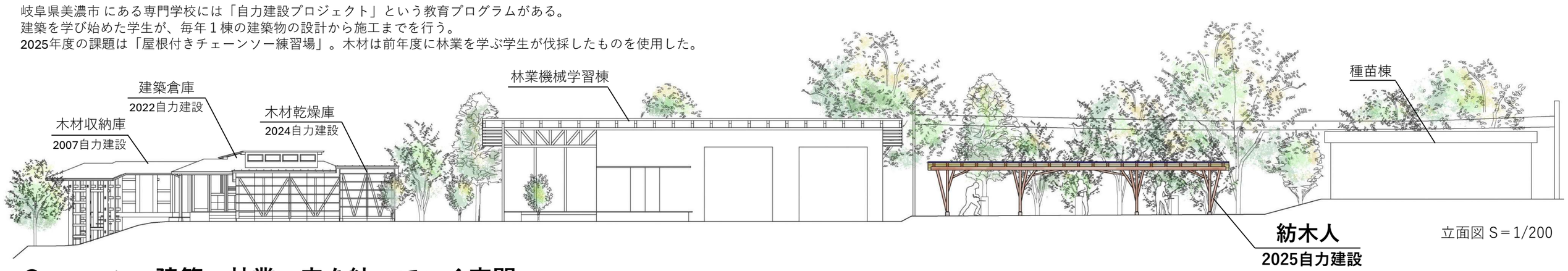
紡木人（つむぎと）

屋根付きチェーンソー練習場

建築を志す学生は
自ら考え、手を動かし、この場をつくった。
林業を志す学生は
ここで練習を繰り返し技術を培う。
森はかたちを変えながら
人とともに、ここから未来へと紡がれていく。

上棟を終えて記念撮影。建物下にいるのが学校で林業や木工などを学ぶ学生と教職員ら。屋根上にいるのが建物の設計、施工に当たった学生ら。

岐阜県美濃市 にある専門学校には「自力建設プロジェクト」という教育プログラムがある。
建築を学び始めた学生が、毎年１棟の建築物の設計から施工までを行う。
2025年度の課題は「屋根付きチェーンソー練習場」。木材は前年度に林業を学ぶ学生が伐採したものを使用した。



立面図 S＝1/200

Concept　建築、林業、森を紡いでいく空間

チェーンソー技術で魅せる舞台

伐倒する方向を静かに見つめ、正確な手つきで幹に刃を入れていく。チェーンソーを扱う姿はとにかくカッコいい。しかし急峻な山々で奮闘する彼らの雄姿は普段人目につかない。紡木人は彼らを引き立たせるための舞台だ。また、教員や学生に繰り返し聞き取りを行い、チェーンソーの様々な練習に対応できるように柱の位置や奥行を調整し、使い勝手の良い空間にした。

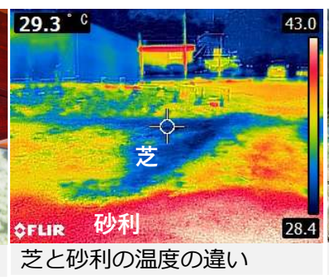
森とつながる建築

一部の木材はあえて枝を払い落した跡が表に来るようにした。枝を打つことで、これより外側は節が出なくなる。先人の労苦は木目となり私たちに遺されている。目の前の木材の来歴を感じられる建築を目指した。また、4m材が多く用意されていたため軸組で最も材積の必要な登り梁を約3800㎜にするなど、歩留向上を狙って設計した。

土地とともに育ち歩む空間

敷地は背後に並び立つ木々が美しく、周囲には過去建てられた自力建設が連なっている。木々や周囲の建物に調和する樹状トラスの架構とした。また現在は砂利となっている部分に芝を栽培し、背後の木々から一部移植を行う予定である。土地と建築と人が共に歩み育っていく空間を目指す。

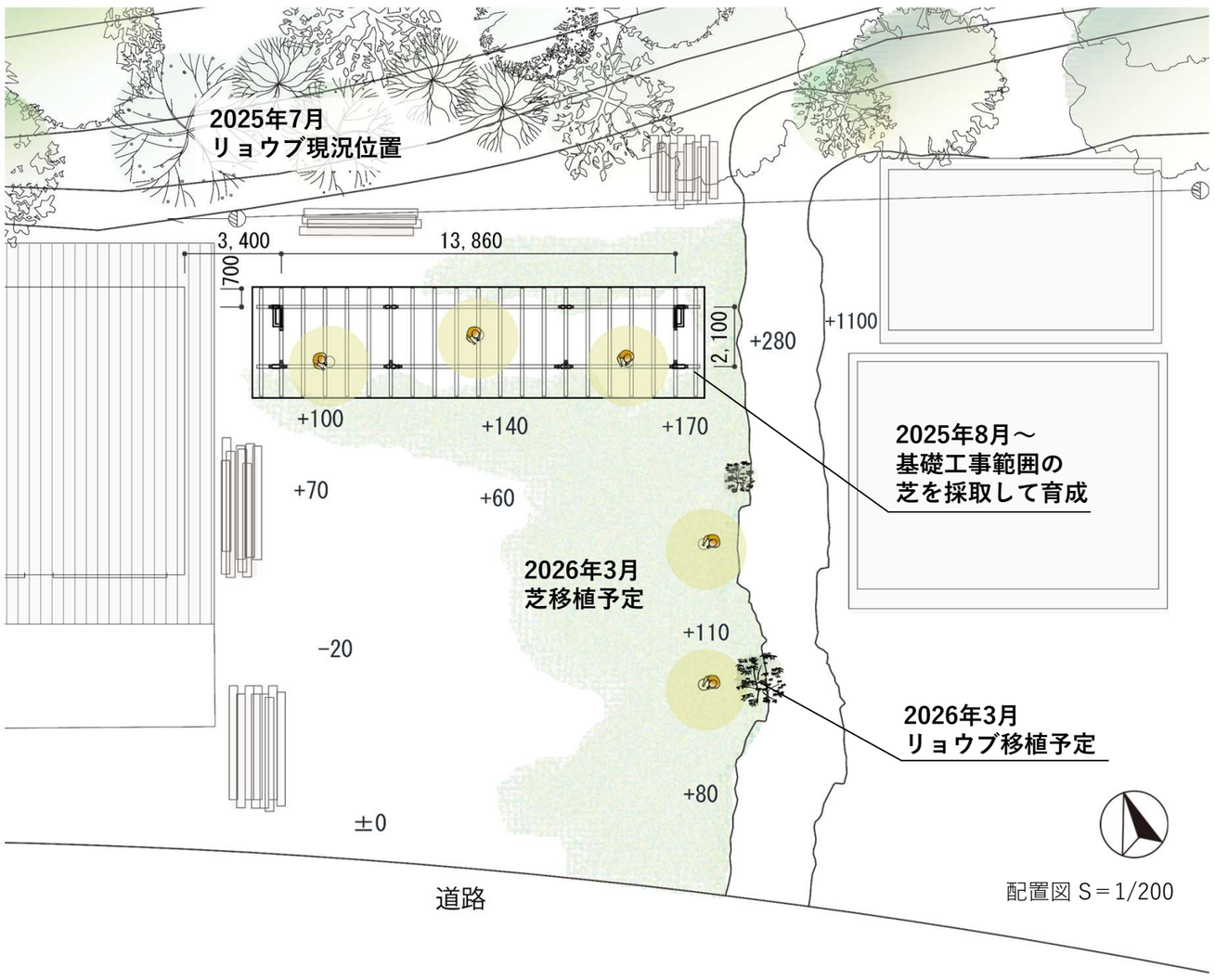
枝打ち跡をみせる



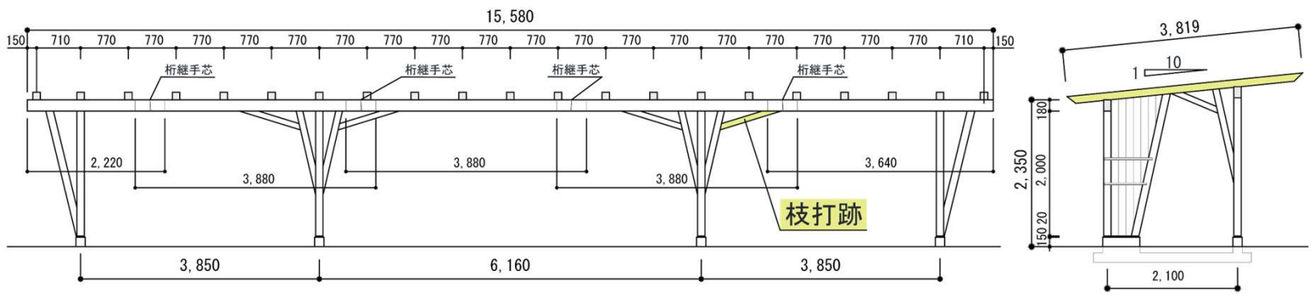
芝と砂利の温度の違い

ランナーから芝を育てる

リョウブの根回し



配置図 S＝1/200



軸組図 S＝1/100

背景１. 酷暑の中チェーンソーの練習に励む学生

林業を学ぶ学生達は、蒸し暑い防護服に身を包み、強い日差しの下で熱心にチェーンソーの練習に励んでいる。特に夏の晴れた日は苛烈を極め、熱中症にかかる危険性がある。これからの森を担う若人が集中して練習できる空間を創ることが、私たちに課された課題だった。

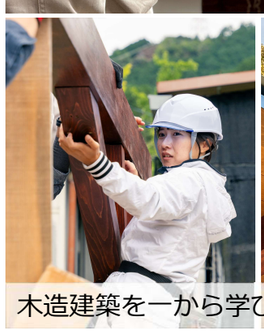
背景２. 60年前に植えられたヒノキとスギ

建設に先立ち、林業専攻の学生の案内のもと、今回使う材を伐採した現場を見た。60年前、私たちの学校の前身となる団体の若者たちが植えた木だった。しかし、木の来歴とは無関係に、木材は低い価格で取引されている。林業側の切実な思いを受け取った。建築にできることはなんだろうか。

日々チェーンソー練習に励む学生

林業の学生より木材の歩留についての説明

ここから、森と人との文化が紡がれていく



木造建築を一から学び、図面作成から施工まで一通り行う木造建築の学生

チェーンソー練習をする林業専攻の学生